

第1回小樽市健康づくり推進ネットワーク会議 議事録

開催日時 平成27年9月1日(火) 午後6時30分から午後8時10分

開催場所 小樽市保健所3階講堂

出席状況 ○委員

近藤委員(小樽市医師会)、渋谷委員(小樽市歯科医師会)、佐藤委員(小樽薬剤師会)、鹿角委員(小樽青年会議所)、小笠原委員(中小企業同友会)、林委員(小樽私立幼稚園連合会)、近藤委員(小樽美容協会)、永森委員(小樽理容組合)、佐藤委員(小樽市民間保育協議会)、釜野委員(小樽市高齢者懇談会「杜のつどい」)、西岡委員(小樽健康づくりウォーキングサポーターの会)、多田委員(おたるストックウォーキングの会)、嶋田委員(小樽市食生活改善協議会)、津崎委員(コープくらしの助け合いの会)、柴田委員(小樽市食品衛生協会)、福丸委員(小樽友の会)

以上16名

○小樽市

保健所 秋野所長、犬塚次長、中村主幹、山谷主幹、健康増進課 宇田川課長、鎌田主査、山本主査、須摩主査、木村主査、菊地主査、藤川主査
医療保険部 国保年金課 伊藤課長

以上13名

(欠席委員：新川委員(小樽総連合町会)、武藤委員(商店街振興組合連合会)、須田委員(坂の街出版企画))

会議要旨

1. 開会

2. 挨拶 小樽市保健所 秋野所長

- 小樽市の健康づくり施策は変革してきており、大きく3つの点で変化してきています。
- 1点目として、ソーシャルキャピタルに依拠した健康づくりを進めていくことです。
これまでのように、保健所などの行政が考えたことを、一方的に市民に伝えていくのではなく、ソーシャルキャピタルの力で健康づくりをしていくことが重要です。
ソーシャルキャピタルとは、社会の中にある力を、さらに強めていった社会の力にしていくことです。
今回、小樽市内の、小樽を動かす力があり、小樽独特の考え方や伝統に基づいた考え方や地域力があり、それをもって小樽市民の力を強めていっていただける重要人物に集まっていただきました。皆さんから御意見をいただき、健康づくりを形にしていきたいと考えています。
「第2次健康おたる21」は、平成25年度から開始しています。市民の方たちに役立つ健康づくりを進めていきたいと考えています。
- 2点目として、平成22年度から「地域診断事業」を開始していますが、これは、市民の健康の現状を把握して、診断した上で、根拠ある健康づくりを進めていくことを目的に行っています。今後、小樽市民のどのような点に着目して地域診断事業を進めていくべきかについても、御意見を

いただきたいと考えています。

- 3点目として、情報発信の方法を小樽市民 12 万人に届く形に変更しています。つまり、集まっていた教室形式を一部廃止し、平成 25 年度からは「チャレンジ健康クイズ」を実施しています。毎年 500 人、5 年間で 2,500 人の方に、「健康クイズ」を郵送します。誤解や考え違いをしている内容について、クイズ形式でわかりやすく伝えてくものです。クイズの内容についても御意見をいただきたいと考えています。

3. 委員紹介

4. 事務局紹介

5. 会長選出 小樽青年会議所 鹿角委員に決定

副会長選出 小樽市食品衛生協会 柴田委員、中小企業家同友会 小笠原委員に決定

6. 報告

(1) 第 2 次小樽市健康増進計画の策定経過

- 事務局説明：「第 2 次健康おたる 21」は、健康増進法に基づく市町村の健康増進計画であり、国の基本方針、北海道の健康増進計画、小樽市総合計画との整合性も図り策定しました。

策定に当たり、市民の方の健康状態や健康に対しどのような意識を持ち、どのような行動をされているのかを把握し計画に反映させるため、策定前年度の平成 24 年に健康意識調査を実施しました。

「第 2 次健康おたる 21」の計画期間は、平成 25 年度から 34 年度までの 10 年間です。健康づくりのためには、社会全体で健康づくりを支援していく体制づくりが必要と考えています。市内の団体の方たちと一緒に環境整備をしていくことで、市民の方の健康づくりを効果的に進めていけると考えています。

- 情報発信の方法についての意見

「情報は発信しても伝わらなければ意味はない。いかに伝えていくかが重要。

キャラクターを作る、文字だけでなく一部漫画を利用する、笑いの要素を盛り込む、耳から入る情報の効果を考えて歌を作るなどの工夫が必要。」

- 計画の内容についての質問

- ・ 計画の内容を改定することは可能なのかとの質問あり、事務局から、平成 29 年度中に中間評価を実施し見直しすることになり、必要であれば平成 30 年度に向けて軌道修正することになる旨回答。

(2) 小樽市のこれまでの健康づくりの取組と進捗状況

- 事務局説明：平成 25 年度から計画に基づく各種事業を実施しており、数値目標を揚げ、年度毎に実績を評価、改善して翌年度につなげています。
- 健康づくり施策である「小樽市健康づくりウォーキング推進事業」についての意見。

「小樽市健康づくりウォーキング推進事業」として「市民ボランティアであるウォーキングサポーターの養成」を実施しているが、平成 27 年度から募集対象者の年齢制限が設けられている。高齢であっても健康で、意欲があるならば対象としてよいのではないかとの意見があり、事務局から、サポーターが地域への普及を長期的、積極的に実施してもらうことを目的に年齢制限を設けたが、年齢については再度検討する旨回答。

- 「健康おたる 21」の目標である野菜摂取量の増加についての意見。
「食生活展では、野菜量の増加を目指し、平成平成 22 年度から野菜の計量コーナーを設けています。」

(3) 第 2 次小樽市健康増進計画の推進体制について

- 事務局説明：年齢、病気や障害の有無にかかわらず、家庭、地域、学校、関係団体、職場・企業、行政などが相互に連携して、健康になろうと思う市民を増やし、個々の健康観に基づいた健康づくりを進めることを目指します。「第 2 次健康おたる 21」の計画を開始してから 3 年目になりますが、基本方針に沿って健康づくりを推進していくため、この度、市民の皆様にご参加いただき、評価会議とネットワーク会議を設置しました。進行管理を行う会議の名称は「評価会議」としました。評価会議は、事業実績を評価し、客観的指標を使い進行管理を行うこと、また、中間年や最終年には総合的評価を行い、計画の見直しを行います。評価会議は 10 月開催を予定しています。ネットワーク会議は、家庭や地域、学校、職場、企業等、さまざまな団体の皆様と行政が連携を取り、情報交換や協働事業に取り組んでいくことを目的としています。年齢、病気や障害の有無にかかわらず、家庭、地域、学校、職場、企業、行政が相互に連携して健康づくりを目指すため、ネットワーク会議を設置しました。いろいろな方に参加していただき、いろいろな意見を交わしていくなかで、みんなが元気に暮らしていくヒントが見つかり、地域の健康づくりの道が開けていくのではないかと考えています。
- 健康づくりを進めていくための方策についての意見
 - 「フェイスブックの活用、健康通信簿といったネーミング、毎週金曜日は健康チェックの日とするなど、小さなことから取り組んでいくことが重要ではないか。」

7. 議事

(1) 小樽市健康増進計画「第 2 次健康おたる 21」の中間評価について

- 事務局説明：計画は 10 年と長期に渡っているため、目標や実施方法等、計画内容が後半に向けても適切なものかどうか、中間評価を行い、検証した上で進めていくこととなります。中間評価に当たり、計画を策定するときに行った健康意識調査をベースに、新たに必要と思われる調査項目も追加した内容でアンケート調査を行う予定です。アンケートは、ネットワーク会議の委員の皆様にも御意見をいただき、来年 3 月までには作成する予定です。このアンケート調査結果を踏まえ、後半の増進計画を進めてまいります。また、食育推進基本法に基づき、平成 23 年から 27 年までの計画である「食育推進計画」を策定していますが、「第 2 次健康おたる 21」の食の部分と重なる部分があるため、評価については併せて実施させてほしいと考えています。このことに伴い、「食育推進計画」

は2年間期間を延長することを考えています。

- 対象を明確にして働きかけることなどが必要ではないかとの意見
「現在の問題点を明らかにして、対象をどこにすることが最も効果的であるのか考え、伝わりやすいメッセージを工夫していくことが必要ではないか。」
- 家庭における食事の重要性についての意見
「親には家庭における食事の重要性を再認識してもらいたい。そのためには、幼稚園や学校との連携も必要ではないかと考えています。」
- 予算についての質問
推進体制の関係予算はどうなっているのかとの質問があり、事務局からネットワーク関係では健康増進計画事業費として予算計上されており、各事業についてはそれぞれの事業費として予算計上されている旨回答。

(2) 今後のスケジュールについて

- 事務局説明：小樽市健康づくり推進ネットワーク会議は、今年度内に今後2回開催の予定です。

議事(1)、(2)について承認される。

8. その他

- きっかけづくりの必要性についての意見。
「自分の健康を知るために無料で健康チェックができる保健所内のスペース設置、健康川柳や不健康川柳を募集して健康意識の把握、健康メッセージが印刷されているネットワーク委員の名刺作成などたくさんの小さなきっかけづくりをしていき、それらが広がっていくようにすることが必要ではないか。」

9. 閉会